

危機に瀕する サラワクの森林(天然林) ～非持続可能な森林の現状～

国際環境NGO FoE Japan
(エフ・オー・イー ジャパン)

三柴 淳一(mishiba@foejapan.org)

国際環境NGO FoE Japan(エフオーイージャパン)

- FoE Japan(Friends of the Earth)は地球規模での環境問題に取り組む国際環境NGOです。
- 1980年から日本で活動。世界73カ国に200万人のサポーターを有するFriends of the Earth International のメンバー団体です。
- 気候変動対策、森林破壊・減少問題、大規模開発事業による環境・人権問題、脱原発・脱石炭など、幅広く政策提言活動を行っています。

FoE Japan の活動理念

■公正・公平な社会 Justice

民主的かつ公正・公平な社会を実現します。

■自然との共生と世代間の公平性 Sustainability

自然と共生し、現在の地球上の資源や環境を将来世代もが享受できる仕組みを実現します。

■人々の主権 People Power

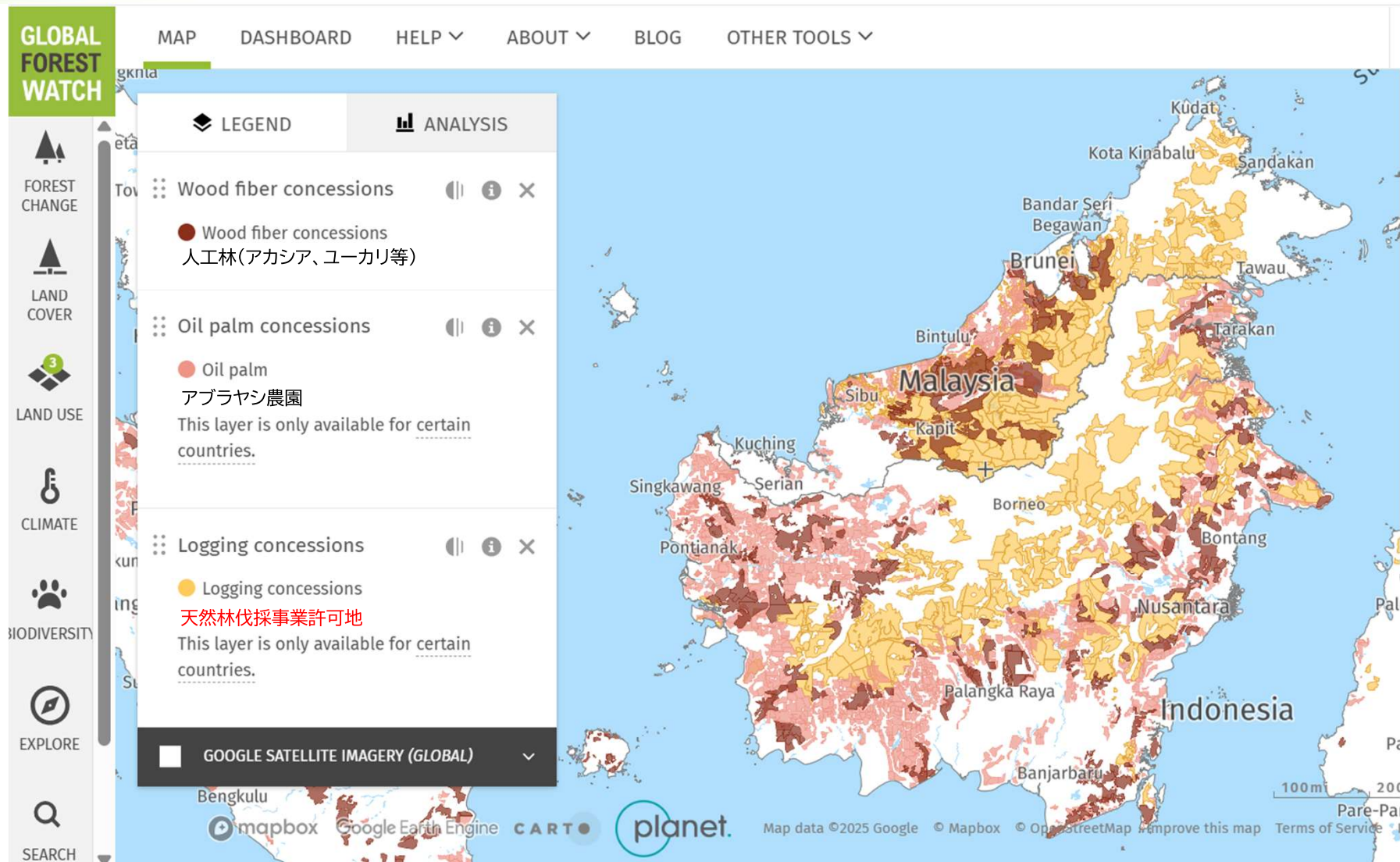
多様なセクターが連帯することで大きなうねりを生み、市民が社会の意思決定をできる社会を実現します。

■しくみを変える System Change

環境・社会問題を生み出している既存の仕組みに対して挑戦し、解決のための仕組みをつくります。

ボルネオのコンセッション(事業許可地)

- ボルネオの森林、ほぼすべてが伐採事業許可地
- 特にサラワクは事業許可地で埋め尽くされている





1992-1993年頃のプナン人の森の様子
(c)ウータン・森と生活を考える会

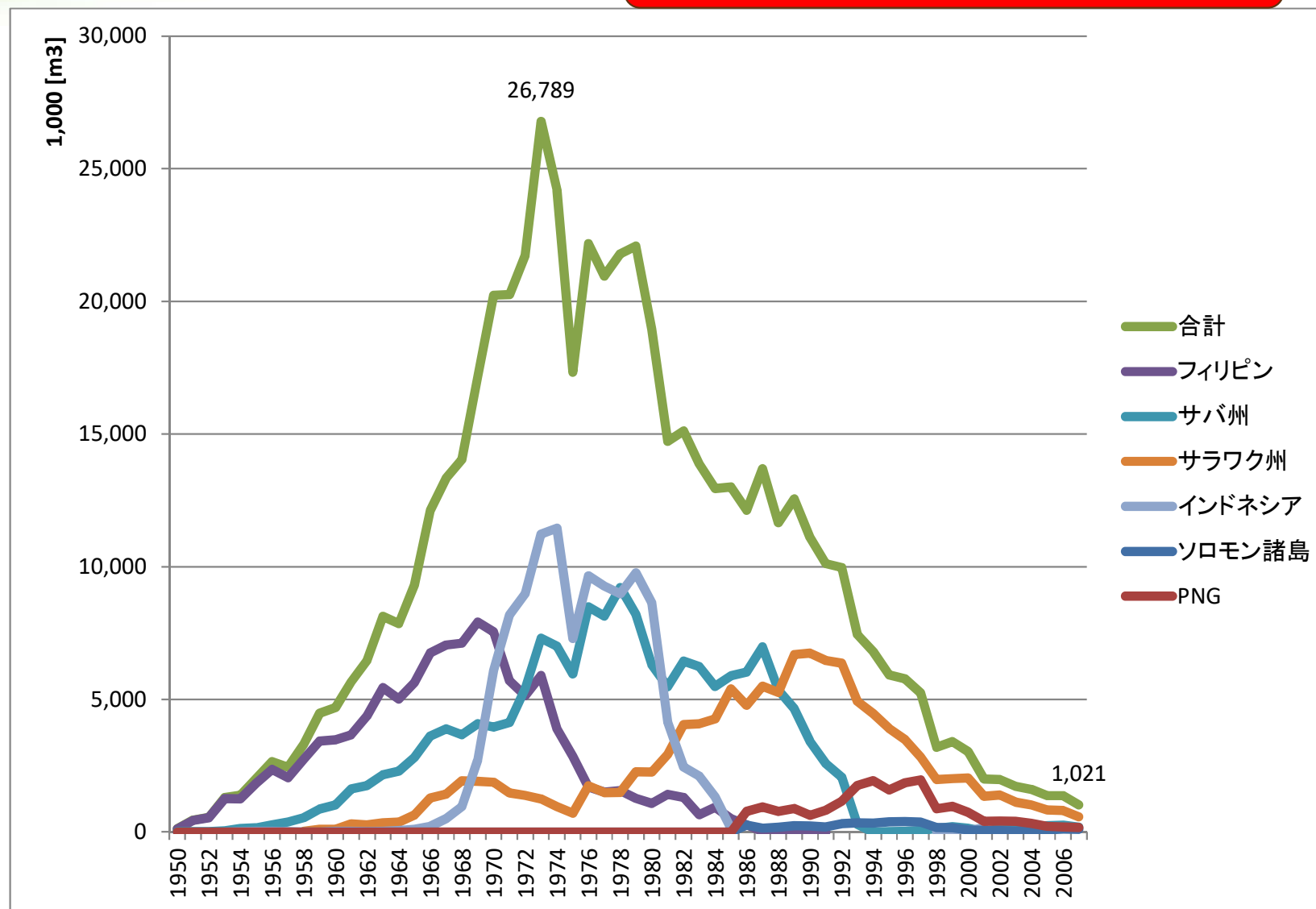
データでみる サラワク林業・森林管理

熱帯丸太輸入量産地国別の年推移

日本による熱帯林破壊の歴史

- 各国の丸太輸出禁止
- ✓ フィリピン-1986年
- ✓ インドネシア-1985年
- ✓ マレーシア
- サバ州-1993年
- **サラワク州-輸出割り当て(クォータ)制度のみ**

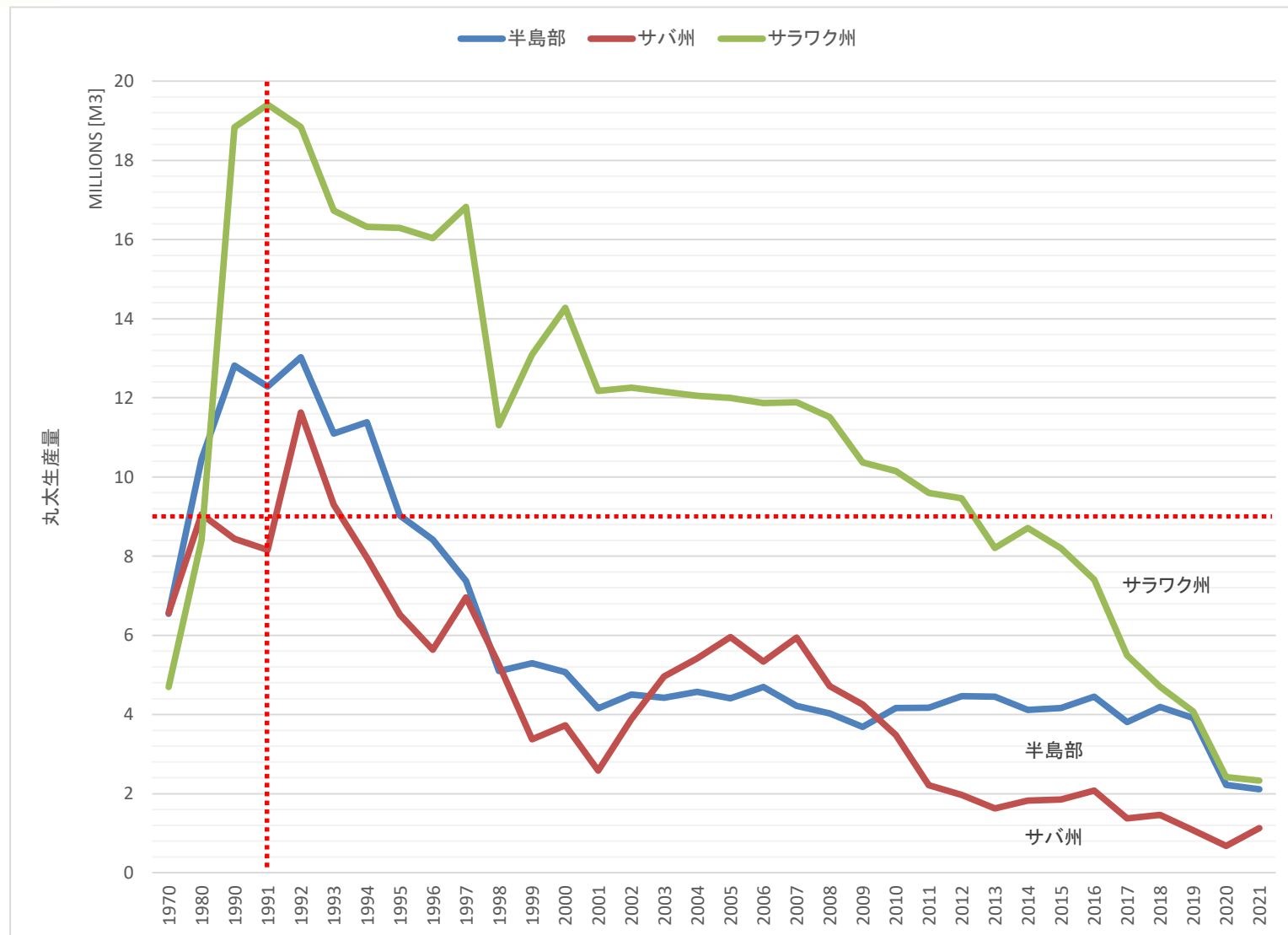
出所: 日本南洋材協議会



マレーシアの地域別丸太生産量の推移(1970-2021)

- サラワク州の丸太生産量は急激な減少傾向
- ITTOから勧告(1991年)を受けた丸太生産量上限920万m³を、2013年以降は大きく下回るようになった
- 半島部・サバ州⇒欧州市場
- サラワク⇒日本市場

×林政の強化
○資源量の減少(枯渇)



出所: Ministry of Plantation Industry and
Commodities. Statistics on
Commodities, 2007-2022.

サラワク州の木材輸出状況(2011-2024)

- サラワク州の木材輸出収益、木材輸出額、合板輸出量が減少傾向
 - 輸出額・量ともに合板は依然として重要製品
 - 特に合板輸出量の82%が日本向け
 - 2022年以降、輸出品目において木質ペレットが増加傾向

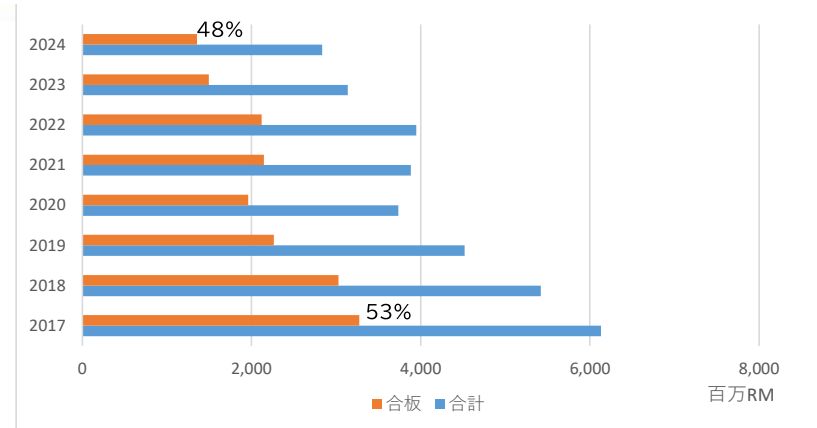


図 (a) 木材輸出収益(Export earning) (百万リングギット)

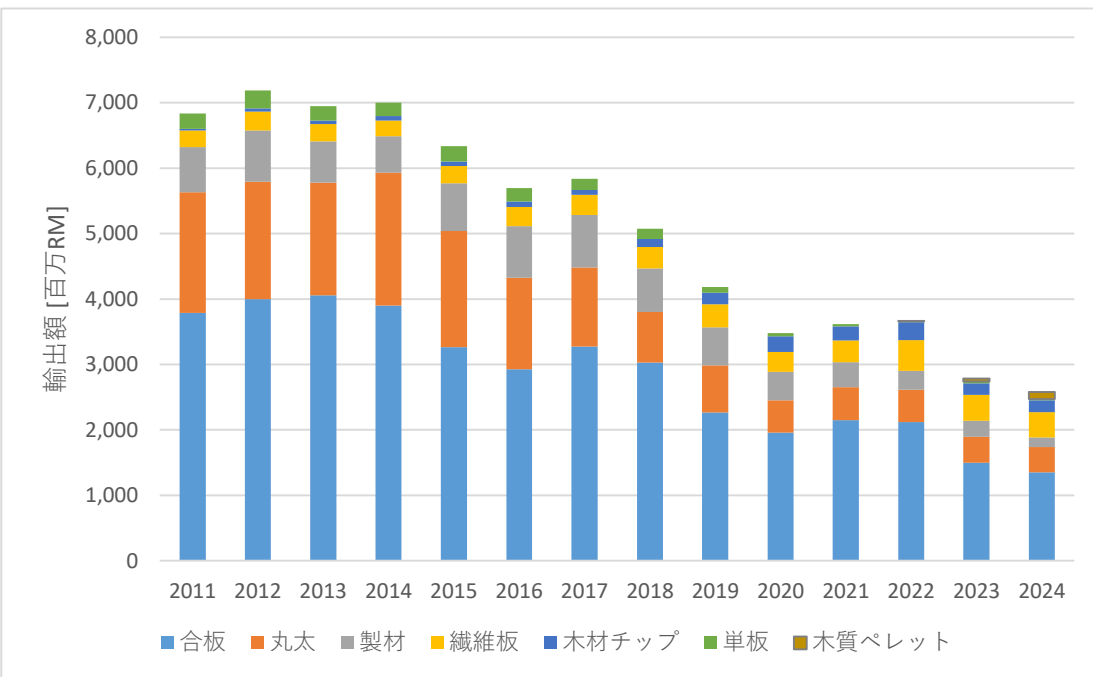


図 (b) 製品別木材輸出額 (百万リングギット)

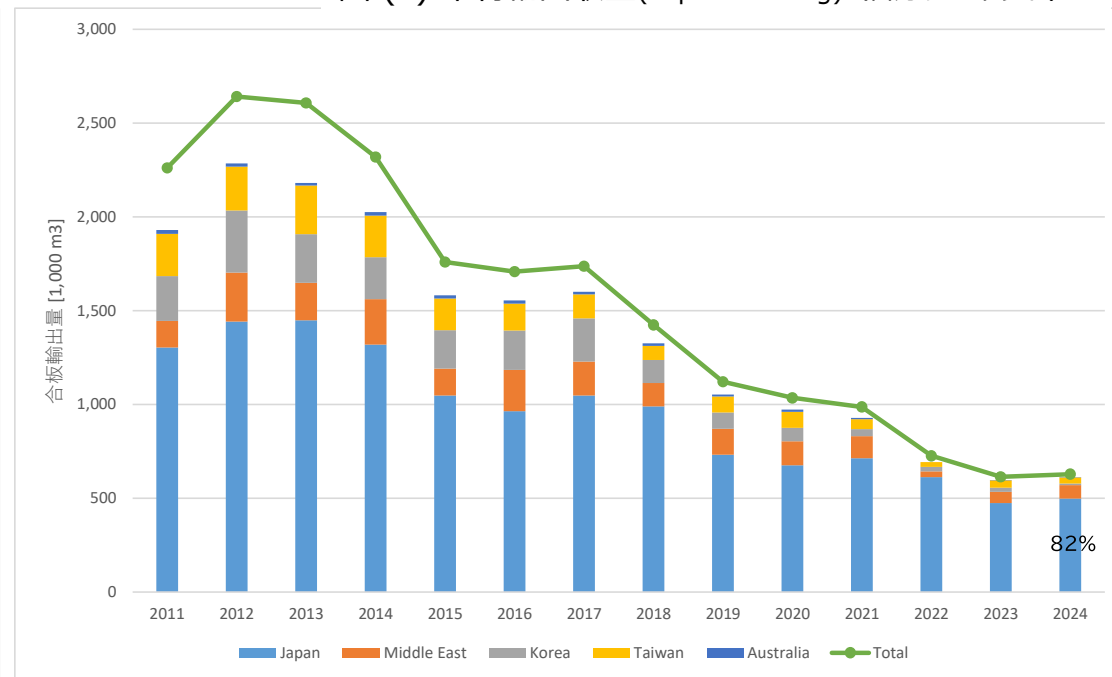


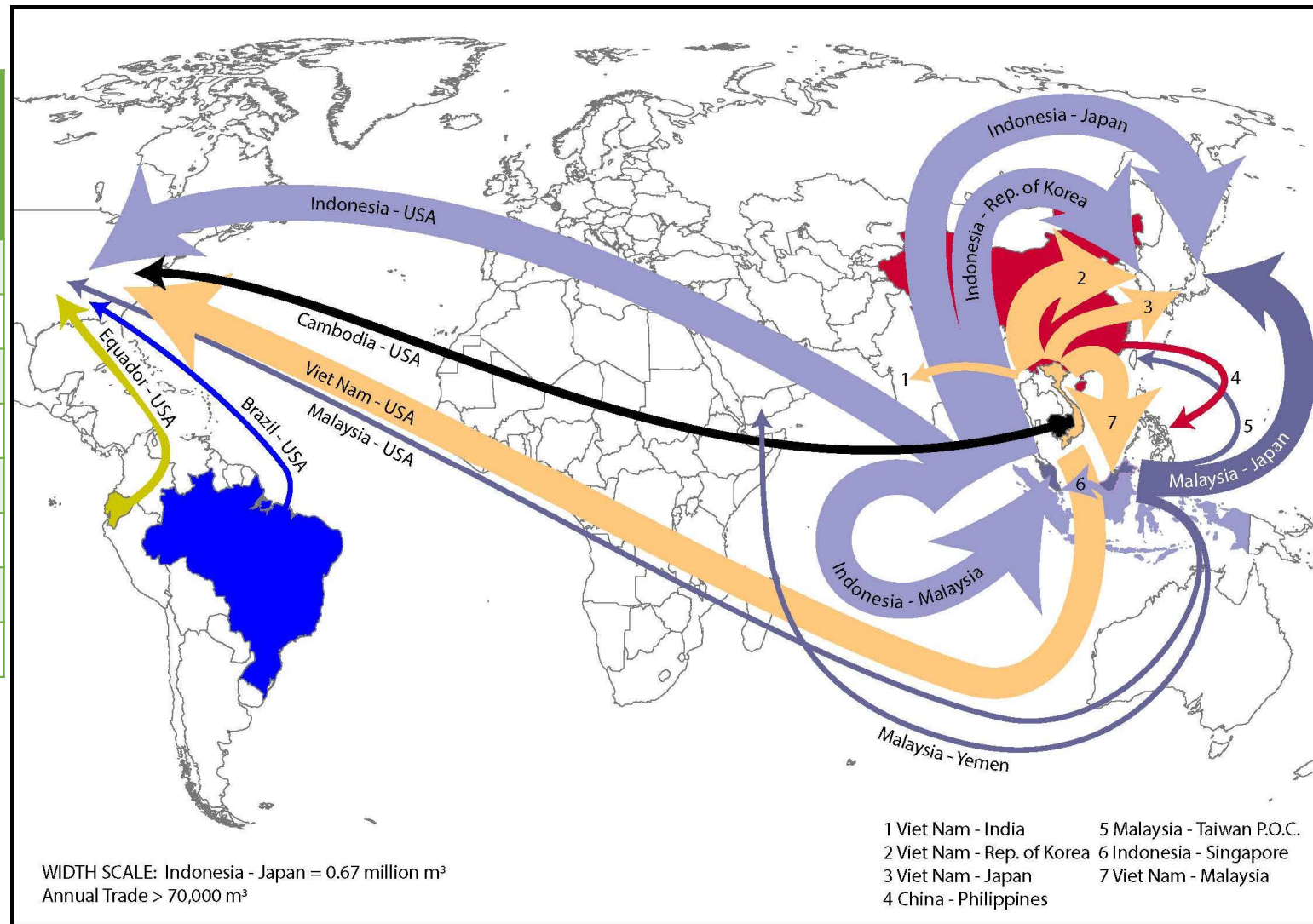
図 (c) 仕向先別合板輸出量 (千m3)

ITTO隔年流通調査:合板 (2023-2024)

表 & 図 合板の主要取引量 (百万m³)

輸出国	輸入国	2023 volume (million m ³)
Indonesia	Japan	0.674
Indonesia	USA	0.604
Indonesia	Malaysia	0.585
Viet Nam	Rep. of Korea	0.544
Malaysia	Japan	0.522
Viet Nam	USA	0.520
Viet Nam	Malaysia	0.412
Viet Nam	Japan	0.292

出所: ITTO (2025) *Biennial review and assessment of the world timber situation 2023-2024*.



グリーン購入法 – 基本方針見直し（2006年4月）

- 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(2000(平成12)年5月)
 - 国(国会、各省庁、裁判所等)及び独立行政法人等が環境負荷の低減に資する原材料、部品、製品及び役務の調達を総合的かつ計画的に推進する
 - 地方公共団体、事業者、国民等についても、基本方針を参考として、環境物品等の調達の推進に努めることが望ましい
- 2006(平成18)年4月、以下の基本方針を見直しすることで違法伐採対策を意図した政府調達を義務化

【判断の基準】

- 間伐材、林地残材又は小径木であること
- ①を満たすことが困難な場合は、原料として使用される原木は、その伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的な木材であること

【配慮事項】

- 原料として使用される原木(間伐材、林地残材、小径木を除く。)は、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること

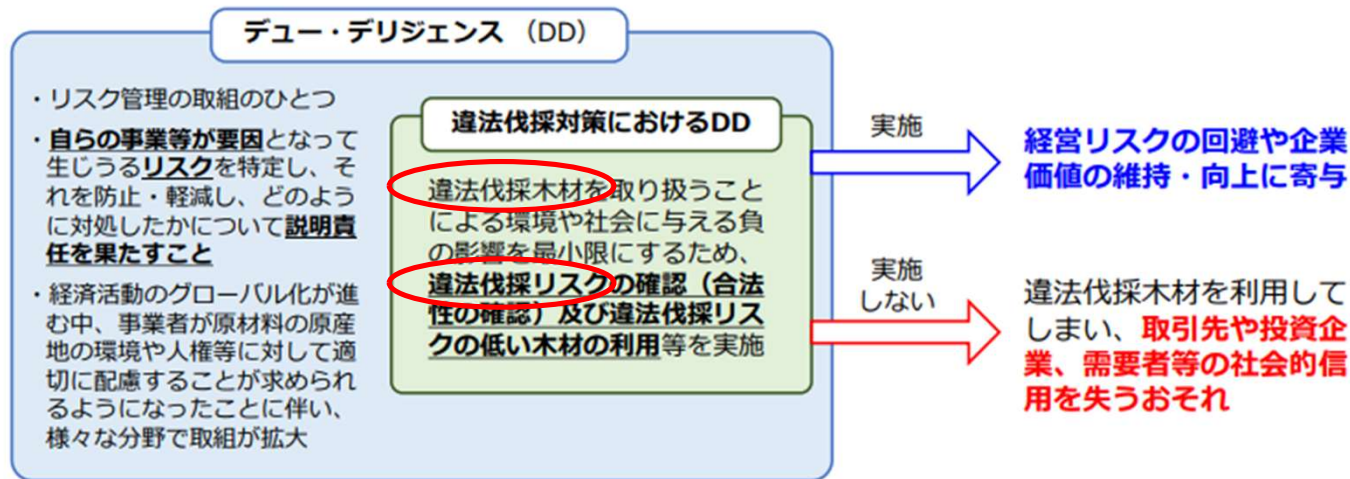
実態は、輸出許可証(CDF2)の裏書(署名&押印)の確認(合法性&書類確認のみ)
※サバ州(MTIB)、サラワク州(STIDC)

クリーンウッド法（2017年5月施行、2025年改正法施行）

デュー・デリジェンスの意義・目的

全

- (1) デュー・デリジェンス(DD)とは、自らの事業等が要因となって生じる負の影響(リスク)を特定し、それを防止・軽減し、どのように対処したかについて説明責任を果たすこと
- (2) 違法伐採対策においては、違法伐採木材を取り扱うことによる環境や社会に与える負の影響を最小限にするため、違法伐採リスクの確認(合法性の確認)やリスクの低い木材の利用等が重要
- (3) DDの実施は、経営リスクの回避や企業価値の維持・向上に寄与



- ◆ 合法性の確認(DD)は一部義務化
- 依然として違法伐採／合法性
- 森林減少や持続可能性は
スコープ外
- 合法的な伐採、合法的な森林開発
(アブラヤシ農園等への転換)は問題視せず
- 「土地の権利」、「人権配慮」は努力目標

出所: 合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)の運用について
(令和8年5月 林野庁木材利用課)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/goho/brochure/pdf/brochure-r7-01.pdf>

新国立競技場



(b)



新国立競技場

[ホーム](#)[審査等の結果](#)[会議・委員会資料など](#)[新国立競技場整備事業記録](#)[基本設](#)[ホーム](#) > [お知らせ](#)

| お知らせ

2017年04月28日

新国立競技場整備事業における木材の調達について（環境NGOの主張に対する見解）

一部の環境NGOが4月20日付で発出したプレスリリース及び同月27日に行った会見において、新国立競技場の建設に使用されているコンクリート型枠用合板に違法な木材が使用されている可能性を指摘しています。

新国立競技場整備事業で用いる木材については、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）の定める、持続可能性に配慮した木材の調達基準に適合した調達となるよう、独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）から事業者に要請しております。

このうち、今回指摘された型枠用合板は、国際的な森林認証（PEFC認証）を取得した製品であるなど、組織委員会の基準に適合した木材であり、今後調達する型枠用合板についても、同基準に適合した木材を用いることとしております。

JSCとしては、新国立競技場の建設に用いる木材について、今後も引き続き、持続可能性に配慮しつつ、政府及び組織委員会と連携を図りながら、整備事業を進めてまいります。

※環境NGOが4月20日付で発出したプレスリリースにおいて、新国立競技場の建設現場の写真と併せ、型枠合板表示のサンプル写真（以下URLに掲載の添付写真(c)）が掲載されていますが、これは、新国立競技場とは一切関係のない写真です。

<http://www.foejapan.org/forest/library/170421.html>

平成29年4月28日

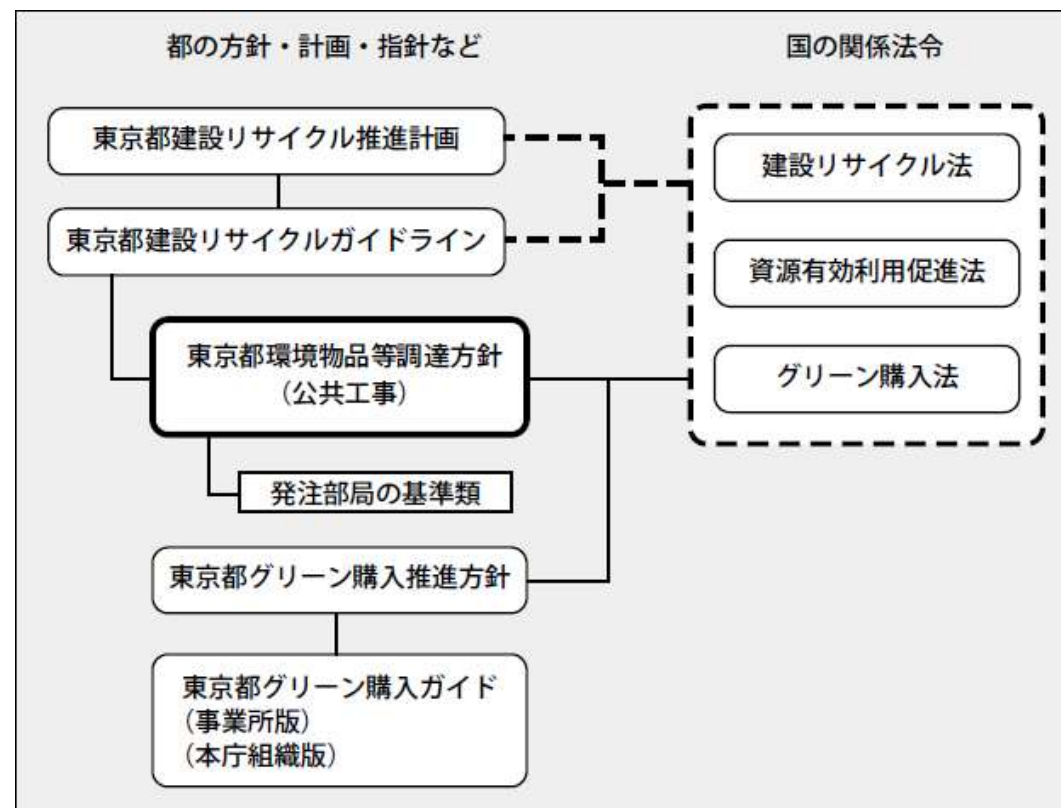
独立行政法人日本スポーツ振興センター

<http://www.jpnsport.go.jp/newstadium/tabid/367/Default.aspx?ItemId=220>

東京都の熱帯木材使用抑制方針

- 公共工事に関する資材・物品調達には、建築リサイクル法など(国交省)に基づく東京都建設リサイクル推進計画、およびガイドラインの下で東京都環境物品等調達方針(公共工事)で管理
 - 同方針において熱帯木材使用抑制方針が盛り込まれている
 - 都の東京都グリーン購入推進方針とは別管理されている
- 「適切に管理されていない森林から伐採された熱帯材などの使用抑制」と明記
- 使用禁止ではなく、やむを得ない場合という条件付
 - 森林認証材(FSC、PEFC、SGEC等)、または合法性、且つ持続可能性が担保されたもの

90年代前半に
サラワク・キャンペーン委員会等が展開した
「自治体キャンペーン」の成果



東京消防庁赤羽署改築現場(北区赤羽, 2019)



民間工事-非認証材(2022-2023)



Shin Yang製

公立中学校改築現場
(杉並区, 2023)



民間建築工事現場(世田谷区, 2023)



サンヤン製(石巻合板)

民間寺院現場(文京区, 2022)

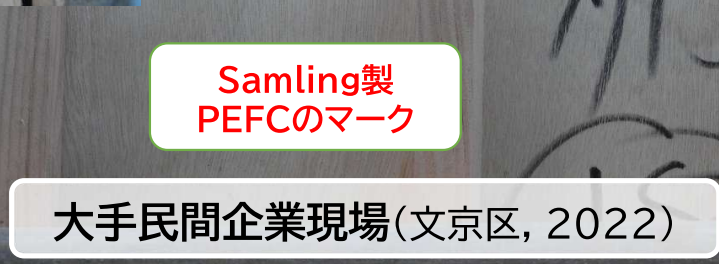
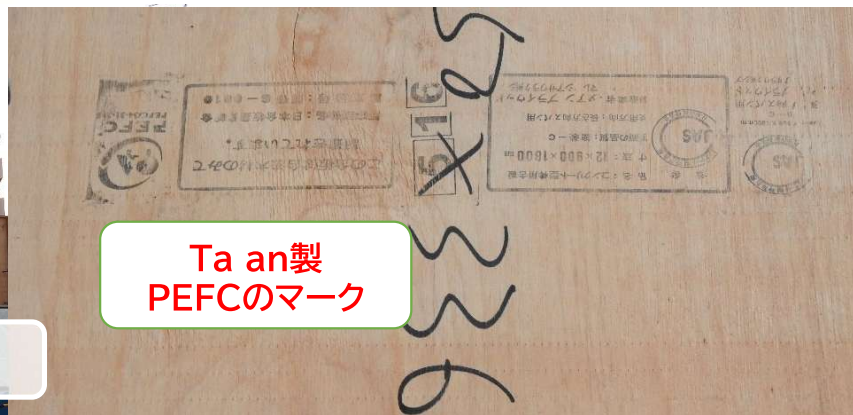
Shin Yang製



この合板は合法木材のみで
製造されています。
認定団体名: 日本合板協会
認定番号: 123456789

塗装
コンクリート型枠用合板
JAS
日本合板協会
12.0 x 800 x 1800 mm
塗装-C
長さ方向スパン用
シンヤングプライウッドビツル(株)工
ロシアサラマ州ビツル

民間工事-認証材(PEFC) (2022)



サムリン社のMTCS/PEFC認証林問題

- サムリン社のMTCS-FM認証林 (Samling Plywood (Miri)-Generai FMU)
- MTCS-FM認証林でFPICの不遵守 (non conformity)
- 先住民族&NGOがサムリンに対して提訴。サムリンもNGOに対して名誉棄損の訴訟(SLAPP訴訟)
*Strategic Lawsuit Against Public Participation(公的参加を排除するための戦略的訴訟)
- 先住民族&NGOは様々な機関に要請
 - MTCC(≒マレーシア政府)に要請するも対応なし
 - PEFC本部にも要請するが対応なし
 - MTCS/PEFC認証材の主要市場の一つ、オランダ政府に要請。対応を引き出すことに成功
 - オランダ政府として木材調達アセスメント委員会(TPAC, Timber Procurement Assessment Committee)が現地査察。当然、MTCC & PEFCも査察に同席。TPACは先住民族&NGOの意見を尊重。結果、サムリンは“自主的”に認証を取り下げた



SAVE RIVERS

現地NGO(Save Rivers)のサイト

FEBRUARY 20, 2025 | SAVERIVERSWEB

Indigenous Baram communities celebrate timber company's withdrawal from their lands



PEFC, MTCC, and TPAC visit Tanjung Tepalit village Feb 15th 2025

Indigenous communities in Sarawak win a landmark victory as the Malaysian Timber Certification Council (MTCC) and international timber certifier visit Sarawak to inspect timber operations.

SAVE Rivers supports and empowers Indigenous communities to protect their land, rivers, and watersheds through capacity building, networking, research, education, and advocacy.

Since 2011 we have promoted environmental and Indigenous rights awareness and sustainable development solutions. We believe that development can be achieved without destruction of livelihoods or rivers and forests.

SAVE Rivers is committed to continuing their duty as a CSO to disseminate information and advocate for Indigenous Peoples and environmental rights.

Learn Social Media

BORNEO POST online
THE LARGEST ENGLISH NEWS SITE IN BORNEO

現地メディア(Borneo Post)の記事

HOME SARAWAK SABAH NATION WORLD BUSINESS SPORTS LITE STORIES FEATURES COLUMNS

YOU ARE AT: Home » News » Sarawak » Generai FMU withdrawal: Inability to sustain forest operations among reasons cited by Samling, says MTCC

Generai FMU withdrawal: Inability to sustain forest operations among reasons cited by Samling, says MTCC

BY PHILIP KIEW ON FEBRUARY 26, 2025, WEDNESDAY AT 9:14 PM

SARAWAK



Gain the UK Education Edge



まとめ – FoE Japanの見解

- サラワク州政府に「持続可能な森林経営」は期待できない／すべきでない
 - サラワクから手を引く／調達しない、がベストな判断
 - 認証材 & より慎重なDD実施は最低限。サラワク産材において非認証材はありえない
- MTCS-FM認証林の持続可能性も信頼性は低い
 - 少なくともShin Yang社は避ける。他社製も、より慎重なDD実施は必須

熱帯天然林は“人任せ”では守れない

- ◆ (調達者)自らのDD／リスク評価で判断すること
- ◆ (ユーザー)国や調達企業へリクエストすること・働きかけること



ご清聴ありがとうございました



国際環境NGO FoE Japan (エフ・オー・イー ジャパン)
三柴 淳一 理事／森林担当
Tel: 03-6909-5983 / mishiba@foejapan.org